

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和2年度第5回 理事会議事録

令和2年7月16日(木) 20:00~22:00

静岡県浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、高相晶士、田中信弘、
筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、長谷川和宏、
波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【出席したオブザーバー】大和 雄(第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会事務局長)

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・松山幸弘が議長となり、開会を宣して議事に入った。

会議は web 会議で行われた。

1. 理事長挨拶

松山理事長が、各地のコロナ禍の状況を尋ね、以前と異なり重症患者が減り、軽症もしくは無症状の患者が増えているとの報告がいくつかなされた。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

前回議事録について一同承知し、修正等ある場合は渡辺理事へ一報することになった。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査(6月分)

6月の入退会について全員を承認した。

3. 社会保険等システム検討委員会よりポスター展示について

大鳥理事が、委員会にて作成した「2022年度診療報酬改定要望項目案」についてのポスター内容を提示した。

9月の当学会第49回学術集会にて、目につきやすい場所に配置することを一同承認した。具体的な掲載場所については、松山理事長と大鳥理事で検討することになった。

4. プロジェクト委員会より腰曲がりに対する保存治療の検証ワーキンググループの委員追加について

山田理事が、プロジェクト委員会内に「腰曲がりに対する保存治療の検証ワーキンググループ」を新設することを提起し承認された。

またそのメンバーについて、星野雅俊委員、宮腰尚久委員、渡辺慶委員のほかに委員外から

- ・松平 浩先生 東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター
- ・石田和宏先生 我汝会えにわ病院

非会員の

- ・佐藤成登志 先生 新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法科
- を任命することを一同承認した。

5. 定款等検討委員会より評議員選出規程の改訂等について

根尾理事が、当学会の「旅費内規」の修正版を提示した。主な修正箇所は、非会員の日当（片道 50km 未満の場合は鉄道賃含む）について対面会議の場合 3 万円、web 会議の場合 1 万円としたことであると説明した。この内規を 2020 年 7 月 17 日から施行することを一同承認した。

次に「評議員選出規程」の改訂案を検討し、第 5 条の以下の修正を承認した。

（修正前）「脊椎脊髄に関する英文論文（筆頭著者 3 編以上）を有することを必要条件」

（修正後）「脊椎脊髄に関する英文**原著**論文（筆頭著者 5 編以上）を有することを必要条件」

次に同第 6 条について検討し、「（再選出）」よりも「（再任）」のほうが正しく内容を表しているとして、この部分の文言を「再任」に修正することを承認した。

また、 の 3 については、

「3. 任期中に義務として振り当てられた学会英文誌の査読業績が**あること**（任期中の全ての査読論文番号リスト添付、任期中に振り当てられなかった場合は不要）」と修正することを承認した。

続いて「評議員選考応募要領」について検討し、一同以下の修正を承認した。（特に業績目録に記入する業績内容や順番や数量を明確に規定した。）

(2)記入する業績内容は以下の順序とする。（各項目とも20編まで）

・脊椎脊髄病に関する英文論文（Journal Impact Factorのあるもの）

ただし、Journal Impact Factorは〇〇年のJournal Citation Reportsを基に判定する。

原著（筆頭著者/共著者）

症例報告（筆頭著者/共著者）

・日本脊椎脊髄病学会に関する業績

日本脊椎脊髄病学会学術集会での座長

日本脊椎脊髄病学会学術集会での指定演題発表（筆頭演者/共同演者）

日本脊椎脊髄病学会学術集会でのその他の発表（筆頭演者/共同演者）

Spine Surgery and Related Research (SSRR)掲載論文（筆頭著者/共著者）

Journal of Spine Research (JSR)掲載論文（筆頭著者/共著者）

・その他の論文（，以外）

英文原著（筆頭著者/共著者）

和文原著（筆頭著者/共著者）

レビュー・総説・症例報告・editorial・letterなど（筆頭著者/共著者）

・招待講演（以外の国内外招待講演）

・日本脊椎脊髄病学会及び日本脊髄外科学会認定「脊椎脊髄外科専門医」または日本脊椎脊髄病学会認定「脊椎脊髄外科指導医」の資格

脊椎脊髄外科専門医

有 認定番号

有効期限

無

脊椎脊髄外科指導医

有 認定番号

有効期限

無

数人の委員から、上記修正案の「 ．日本脊椎脊髄病学会に関する業績」として Asia travelling fellow、大正 Award、学術集会での English poster award などを入れてはどうかと提案があった。受賞歴は当学会のもの限定とすることで、一同の意見が一致した。

小澤監事が、推薦できるのは役員となっているが、監事が抜けていると指摘し、この部分も併せて修正することになった。

以上まとめて再度、定款等検討委員会内で最終案を検討することになった。

その他

・『SSRR』のスカラーワン（論文投稿システム）契約論文数の上限を 100 件から 150 件に増やす件

山田理事が、『SSRR』への投稿数が増えており、2020 年はすでに 156 本の論文が投稿されているが、杏林舎との契約論文数が 100 件以内となっているとして、上限を 150 本に増やしたいと提案し、一同検討の結果、費用も含め承認した。

・ニュースメールの件

山田理事が、数日前に理事会一同に見本が配信された HTML 状のメールについて、『SSRR』や『JSR』が発刊される際にこのようなニュースメールを会員に一斉配信してはどうかと提案した。また同様に、月に 1 度程度、「学会（事務局）からのお知らせ」も配信してはどうか提案し、事務局がその方法を説明した。一同検討の結果、事務局にて業務を行うことを承認した。

また、『SSRR』と『JSR』については、ニュースメール配信後、どの論文がどの程度クリックされたかなどの追跡調査に関しても一同検討し、今月から始めることで費用面も含め承認した。

2. 審議・報告事項

1. データベース委員会報告

筑田理事が、統合型データベース構築へ向けてベンダーを選定中であることを報告した。概算で2500～3000万円はかかるが、単年度であれば問題が無いことを千葉財務委員会担当理事に確認した。最終的には理事会で承認を予定している。

2. 診断評価等基準委員会報告

筑田理事が、7/10に委員会でプロジェクトの進捗を確認し、すでに完了したプロジェクトについては、竹内委員と寒竹委員が論文化し『JOS』に投稿予定であることも併せて報告した。

3. 英文誌編集委員会報告

山田理事が、『SSRR』の査読に協力しなかった評議員について個別に連絡したが、メールアドレスの不通等のトラブルによるもので悪意はなかったことがわかったと報告した。また MEDLINE への収載を行うことで、『SSRR』のさらなる投稿数増加と被引用数促進が期待できると説明した。

4. プロジェクト委員会報告

山田理事が、次回の委員会開催は9月に実施予定と報告した。

5. 安全医療推進委員会報告

高相理事が、今後の合併症調査の進め方については、統合型DBの3階部分に載るようになるため、データベース委員会と検討していくこと、脊椎脊髄手術に関する安全情報を広報委員会と協力し、ホームページ等で発信していくことを説明した。

また、委員会でサポートする研究として、すでに開始している「放射線の安全利用に関するアンケート」の現状についての報告を行った。約2000施設のうち約300施設の回答が届いたとのことであった。

また、川口評議員から提案のあった「レベルエラーを防ぐための研究」についても、今後委員会で川口評議員に説明をしてもらったうえで検討していく予定であり、この研究については川口評議員の所属である富山大の倫理委員会を通過していると説明した。当学会のプロジェクトであるので、当学会の倫理委員会でも審査する必要があることを一同確認した。

高相理事が、最高裁まで上がってくる医療事故の裁判事例について学会に問合せ（鑑定の確認など）が入ったときは、従来大川評議員（前庶務担当理事）がボランティアで引き受けていたが、今後は高相理事と今釜委員長で検討し協力していく予定と説明し、依頼内容については理事会にも報告することを一同確認した。

6. 教育研修委員会報告

松山理事長が、第50回学術集会中の研修コースから「モニタリング第 コース」を開始し、担当は吉田剛委員とすることを報告した。56名規模の部屋を予約しているが、よりキャパシティのある部屋に変更予定であると説明した。

7.国際委員会報告

伊東理事が、OPLL Third Edition の配布先について APSS 事務局などと相談し調整中であること、2021 年の APSS-APPOS のプログラム構成ならびに JSRR からの支援の可能性について、学会運営の進捗を確認しながら適時審議を依頼したいことなどを報告した。

8.広報委員会報告

田中理事が、理事長より指示のあったホームページの改修について、昨年リニューアルしたばかりで大きな改修点はなかったが、今後改修を進める点について報告した。

- ・トラベリングフェローの写真掲載
- ・現理事顔写真の掲載
- ・理事長挨拶の英語版の作成と学会概要掲載部分をよりわかりやすくする
- ・入会方法をわかりやすくする

またバナー広告が現状 2 社の掲載であるが、委員会内で検討し増やしていくことや、今後の委員会開催はwebにて頻回にしていくことなどを報告した。

9.指導医制度委員会報告

田中理事が、7/28に委員会開催予定であると報告した。

10.社会保険等システム検討委員会報告

大鳥理事が、2022年度の要望項目としては審議事項にて提示したポスター掲載の新規4項目、改正7項目、その他で4点を案としてしていると報告した。

11.JSR編集委員会報告

長谷川理事が、通常であれば4月の学術集会終了後に実施している上位100位の優秀演題の筆頭演者への執筆依頼について、今年は学術集会が秋に延期されたので、学術集会閉幕を待たずに依頼を開始することになったと報告した。

また、来年度の抄録集と通常号11冊についての杏林舎からの見積書を提示した。

12. 倫理委員会報告

小田理事が、日本整形外科学会で作成される予定の倫理審査の書式一式を待っているがまだできていないため、確定の情報が得られ次第対応する予定であると報告した。また川原理事より、日本整形外科学会では学術集会演題の倫理規程を定めていくことが決定され、今後その方向で作業を進めていくとの情報を頂いた。

13. 新技術評価検証委員会報告

渡辺理事が、新規技術として小児側弯症を対象疾患としたSHILLA growth guidance systemの国内導入について某社より相談があったが、早期発症型側弯症を対象とした特殊な内容であり、過去のVEPTR等では日本側彎症学会（側彎症学会）が審議していたのと、PMDAからすでに側彎症学会で検討を開始しているとの連絡があったため、引き続き側彎症学会で実施すると説明した。

松山理事長が、側彎症学会の規模や委員会のキャパシティやスピード感の問題もあるので、このような案件についても今後は当学会で検討をしていくほうがよいと考えたと意見を述べた。

14. 定款等検討委員会報告

審議事項で検討済み

15. 学術集会プログラム等検討委員会報告

根尾理事が、7/20に委員会を開催し第52回学術集会（種市会長）のコンベンション会社について審議を予定していると報告した。

16. 学術集会プログラム等検討委員会より：第49回学術集会開催状況について

大和事務局長が、第49回学術集会について、現状事前参加・演者ともにキャンセルとなったのは1割程度で、協賛企業については2社がキャンセルとなったと説明した。

感染症対策としては、浜松医大の感染症対策室の協力のもと、前回理事会で報告した会場入口のサーモグラフィーの設置等の対策に追加し、ランチョンを2列に分ける、晚餐会をやめて演奏会と夕食のチケット配布にするなど対策を立てている。

小西監事が、学術集会のホームページを頻繁に更新し、コロナ対策や決まったことを流してほしいと依頼し、松山理事長が承知した。

学会中の委員会開催は行わず個別にweb会議とすることになった。

また理事会は前日16：00から、総会は初日の14：10からであるが、総会は状況によっ

ては紙の配布のみや会場をつないで映像を配信するなどの対策もありうるとして、学術集会側で検討することになった。

また、病院から学会への参加を禁止されたが場合「参加」および「発表」を認めるかが議論され、一同検討の結果、発表については事前にpptを学術集会運営事務局に送れば認めることとし、参加については今年のみ事前参加登録をしていれば認めることになった。この決定についても、学術集会ホームページに掲載し、会員に周知することになった。

以上

令和2年7月16日

一般社団法人日本脊椎脊髓病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭